

編集後記

平成8年度から光彩の発行は季刊となりほぼ3ヶ月毎に会員諸兄の目に触れることとなります。平成7年度の補正予算に関連して急に10本のBL建設が具体化し、平成8年度で更に次の10本のBLが決定されそうな雲行きであることが3月末の拡大世話人会議で明らかとなりました（参加者の感想は6月発刊の次号で掲載予定）。発刊期間の短縮によりよりホットなニュースを提供できるでしょう。さて、光彩編集作業は編集幹事2名（難波、圓山（3月から姫工大、伊藤と交代））と事務局佐久間女史の3名で行っています。記事の内容や誰に頼むかは3人の間で電話や電子メールでやり取りして決めますが最後の編集の詰めは現地西播磨の事務局で行わざるを得ません。朝現地に赴き、アレコレ原稿の体裁やら表現を検討すると直ぐ夜になります。表現の検討は利用者懇談会にとっても大変重要で、手を抜けません。これは主に対外的な理由からです。ですから依頼した原稿の最終的文章表現についてはこちら編集幹事に一任していただくことにしています。これまでの経験だと大体の目処がつくのが夜9時頃、帰りの汽車の時間を考えながら後はFAXでやり取りすればよいという段階まで話を煮詰め、後は脱兎のごとく現地を抜け出るというわけです。（佐久間女史運転のライトバンをひらすら遠慮して）大抵は相棒の圓山氏が車で来ているので最寄りの相生駅まで乗せてもらいます。家に着くと10時過ぎ。なかなか辛どい事です。希には良いこともあります。いつでしたか8号の編集作業で現地へ赴く途中は姫路から現地へのバスの乗客は私一人でしかも辺り一面紅葉の真っ盛り。心が洗われるような素晴らしい景色でしたナ（帰りは例の如く辛どかったです）。

難波 孝夫

春の気配とともに、慌ただしかった平成7年度も残り僅かとなりました。この一年間を振り返りますと、併設BL計画の提案と実施、要求書作成、仕様書作成、入札等々、SPring-8建設計画の急速かつ着実な進展が実感されます。この間の関係者のご努力に敬意を感じつつ、個人的にも様々な感慨が湧いて参ります。会員の皆様もSPring-8の全体像を具体的にイメージしながら、夢を膨らませておられる事と思います。また、各併設BLのSGは建設に向けて益々テンションが上がって来ていることと思います。BL建設の進展に対応して、情報源としての「光彩」の役割も益々重要になって来ている訳です。例えば、建設の現状報告、福利厚生施設関係の情報、利用懇・共同チーム・JASRIの間のコミュニケーションの場としての役割等が考えられます。私達も「光彩」の充実のために努力致します。会員の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。ところで私事になりますが、3月末から6ヶ月間文部省在外研究員としてグルノーブルに参ります。SPring-8建設のこの時期に半年間も戦列を離れることとなりますが、ESRFの様々な現状をBL建設の立場から、併せて共同利用者の立場からもご報告したいと思っています。

圓山 裕

編集幹事の圓山さん（岡山大学）が長期海外出張されることになり、残りの任期の代理を依頼されました。常日頃お世話になっている圓山さんからの依頼とあって、断れるわけもなく、お引き受けすることに致しました。3月末（物理学会の直前の非常に忙しいとき）の編集会議から参加させていただいております。今までは、定期的に送られてくる“光彩”を、何気なくざっと眺めるだけでした。実際に編集会議に参加させて頂くと、一冊の“光彩”を発行するまでに、いかに多くの方（編集に携わっている編集幹事、SPring-8懇談会事務局の佐久間さん、原稿を書いて下さった方々等）の労力と時間を費やしているか、がわかりました。

このような仕事は初めてで何かとなれないことも多く、現在は、難波先生の足手まといにならないようにするのが精いっぱいですが、今後はお役にたてるように努力する所存です。宜しくお願い申し上げます。

伊藤 正久

「光彩」 No. 9

1996年3月発行

発行 SPring-8利用者懇談会
〒678-12 兵庫県赤穂郡上郡町金出地1503-1
(財)高輝度光科学研究センター内
TEL 07915-8-0970 FAX 07915-8-0975

印刷 アイテム ジャパン
〒658 兵庫県神戸市東灘区深江本町3-1-6
TEL 078-413-5400 FAX 078-413-5335